

1. 科目名（単位 数）	音楽Ⅲ（2 単位）	3. 科目番号	SJMP3140								
2. 授業担当教員	本野 洋子										
4. 授業形態	演習、講義、実技	5. 開講学期	春期								
6. 履修条件・ 他科目との関係	子どもと音楽、音楽Ⅱ、音楽実践演習Ⅱを履修済であること										
7. 講義概要	「音楽Ⅲ」では「音楽」、「音楽Ⅱ」で習得した技術の上に立って、実習や就職後の実践力の育成を視野に、保育現場の長期、短期の指導計画に音楽的活動を適切に盛り込むことができるようになるため、あらためて保育における音楽活動に関わる知識と技術を磨く。子どもが歌うとはどういうことか理解し、適切に教材を選ぶため、子どもの歌の特徴を理解し、正しく歌い、演奏し、楽器で遊び、身体で表現する。ピアノの弾き歌いおよび楽器の演奏と合奏の技術をさらに高め、表現の指導法についても深めていく。それらの学習を通して、個人の素養と、より高い保育・教育実践に必要な知識や技能を習得する。										
8. 学習目標	1. 子どもの歌、子どもの発声についての理解を深め、自ら正しく演奏できる。 2. 子どもの発達、興味関心、季節等に応じた教材選択ができる。 3. 歌、楽器、身体表現、言葉などを含む総合的な活動を企画、実践できる。 4. 弾き歌いなど保育者としての音楽能力を高める。										
9. アサイメント （宿題）及びレポ ート課題	① ピアノ：課題曲を次週までによく練習しておくこと。 ② こどもの歌、手遊び歌、リズム活動を主とした遊び歌等のレパートリーを増やす。 ③ コードネーム等授業内で課された理論課題を実施し、提出すること。 ④ 手作り楽器を使用したパフォーマンス発表演奏。 適宜に「弾き歌い」、「手遊び歌」等の発表を行い、現場での実践に即した、考える授業づくりのための演習とする。										
10. 教科書・参考 書・教材	【教科書】 ・1、2 年次に使用した教科書を継続使用。 ・上記の教科書以外に必要な楽譜等は、授業内でプリントにして配布予定。 【参考書】 ・二宮紀子著『歌って弾いて書いてわかる子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ』音楽之友社、2014。 【教材】※各自で必ず購入しておくこと。 ・五線紙、五線ノート（授業初回時に説明） ・ヘッドフォン ・6.3mmステレオジャック（先端が3.5mmジャックの場合、ステレオ変換ジャックが必要）										
11. 成績評価の規準 と評定の方法	○成績評価の規準 1. 子どもの発声指導に関する知識を身につけ、自らも正しく演奏できるか。 2. 子どもの発達、興味関心、季節等に応じた教材選択ができるか。 3. 歌、楽器、身体表現、言葉などを含む総合的な活動を企画、実践できるか。 4. 弾き歌いなど保育者としての音楽能力を高められたか。 ○評定の方法 以下の点を総合して評価する。 <table><tr><td>1 子どもの発達、興味関心、季節等に応じた教材選択とその演奏発表</td><td>総合点の30%</td></tr><tr><td>2 歌、楽器、身体表現、言葉などを含む総合的な活動の企画と実践発表</td><td>総合点の30%</td></tr><tr><td>3 弾き歌いの発表</td><td>総合点の20%</td></tr><tr><td>4 授業への取り組み（学習意欲・学習態度など）</td><td>総合点の20%</td></tr></table> 上記のほか、本学規定に定められている3／4以上の出席を単位認定の条件としている。			1 子どもの発達、興味関心、季節等に応じた教材選択とその演奏発表	総合点の30%	2 歌、楽器、身体表現、言葉などを含む総合的な活動の企画と実践発表	総合点の30%	3 弾き歌いの発表	総合点の20%	4 授業への取り組み（学習意欲・学習態度など）	総合点の20%
1 子どもの発達、興味関心、季節等に応じた教材選択とその演奏発表	総合点の30%										
2 歌、楽器、身体表現、言葉などを含む総合的な活動の企画と実践発表	総合点の30%										
3 弾き歌いの発表	総合点の20%										
4 授業への取り組み（学習意欲・学習態度など）	総合点の20%										
12. 受講生への メッセージ	この授業では、特に『音楽』『音楽Ⅱ』を修了した皆さんが、実習や就職後の実践力の育成を視野に、さらに高度のテクニックを身に付けていくために、単に器楽を演奏するテクニックを向上させるのではなく、進んでそれらのテクニックを応用して指導していく技術を学ぶことを目的としています。従って自主的で積極的な授業への参加を望んでいます。また、音楽Ⅱにおいて、十分に音楽的技術を習得できなかったと自覚する皆さんは、是非この授業で、ピアノの弾き歌いや指導法の技術を高めていってほしいと願っています。										
13. オフィスアワー	最初の授業時間の時に通知する										
14. 授業展開及び授業内容											
講義日程	授業内容	学習課題									
第1回	オリエンテーション シラバス説明、授業概要 経験値に応じた課題曲選曲	事前学習	今まで学んだこどもの歌の復習。								
		事後学習	オリエンテーションで指導されたことの復習。								
第2回	音楽理論①マイナーコードについて 子どもの歌唱、発声について① ピアノ演奏及び弾き歌いレッスン①パートリーを増やしていくようにする	事前学習	課題曲の練習。五線ノートの準備。								
		事後学習	レッスンの復習。音楽理論、子供の歌唱について復習。								
第3回	音楽理論②長調の中のマイナーコード 子どもの歌唱、発声について②子どもの音域について	事前学習	課題曲の練習								
		事後学習	レッスンの復習。音楽理論、子どもの音域に								

	ピアノ演奏及び弾き歌いレッスン②		ついて復習
第4回	音楽理論③長調と短調 子どもの歌唱、発声について③子どもにとって歌いやすい音域の曲について ピアノ演奏及び弾き歌いレッスン③	事前学習	課題曲の練習。
		事後学習	レッスンの復習。音楽理論、子どもの音域に合った曲について復習。
第5回	ピアノ弾き歌い発表 現場を想定した演奏とは 弾き歌い発表の振り返り	事前学習	弾き歌い発表課題曲の練習。
		事後学習	発表について振り返る。特に、美しい発声、表現力について復習。
第6回	子どもの年齢に応じた歌唱活動について実践映像を鑑賞し、各自の感想・意見などをディスカッションし、レポートを作成する。 ピアノ演奏及び弾き歌いレッスン④	事前学習	課題曲の練習。「子どもの歌唱活動」についてレポート作成の準備
		事後学習	レッスンの復習。レポートの振り返り。
第7回	子どもの行事における歌唱活動について実践映像を鑑賞し、各自の感想・意見などをディスカッションし、レポートを作成する。 ピアノ演奏及び弾き歌いレッスン⑤	事前学習	課題曲の練習。「子どもの行事における歌唱活動」についてレポート作成の準備
		事後学習	レッスンの復習。レポートの振り返り。
第8回	子どもの自由な表現とは何か。歌唱を通した表現について考える。 各季節の歌を考える。各自の感想・意見などをディスカッションし、レポートを作成する。 ピアノ演奏及び弾き歌いレッスン⑥	事前学習	課題曲の練習。「子どもの自由な表現」についてレポート作成の準備
		事後学習	第8回目に指導された事柄を復習して練習する。アンサンブルの記譜法について慣れる。
第9回	音楽理論⑤コードネームの復習 ピアノ演奏及び弾き歌いレッスン⑦実習対策・生活の歌	事前学習	課題曲の練習。
		事後学習	レッスンの復習。課題曲の練習。
第10回	音楽理論⑥コードネームを見て伴奏譜を作成 ピアノ演奏及び弾き歌いレッスン⑧実習対策・季節の歌	事前学習	課題曲の練習。
		事後学習	レッスンの復習。課題曲の練習。
第11回	ピアノ演奏及び弾き歌いレッスン⑨実習対策・行事の歌 手作り楽器の作成①子どもにとって「奏でる」とは 手作り楽器のポイントを説明。各学生が与えられた素材をどう工夫して音に出していくかを考える。	事前学習	課題曲の練習。手作り楽器作成の準備。
		事後学習	レッスンの復習。課題曲の練習。 手作り楽器の作成。
第12回	ピアノ演奏及び弾き歌いレッスン⑩ 手作り楽器の作成、および指導法② 手作り楽器の中で、楽器の制作過程およびそれらの楽器を使ったパフォーマンスを考える。	事前学習	課題曲の練習
		事後学習	レッスンの復習。課題曲の練習。 手作り楽器を完成させる。
第13回	音楽理論⑦自分でコードネームを考え楽譜を作成する ピアノ演奏及び弾き歌いレッスン⑪課題発表曲の準備 手作り楽器を用いたリズム遊び それぞれが制作した楽器を使い、歌や身体活動を伴うパフォーマンスを考える。	事前学習	レッスンの復習。課題曲の練習。
		事後学習	弾き歌い発表課題曲の練習。
第14回	音楽理論⑧コードネームのまとめ ピアノ演奏及び弾き歌いレッスン⑫課題発表曲の準備	事前学習	弾き歌い発表課題曲の練習。
		事後学習	レッスンの復習。弾き歌い発表課題曲の練習。
第15回	ピアノ演奏及び弾き歌い発表 発表の振り返りレポート作成・提出 これからの音楽の学習、音楽と共にある人生について、学生へのメッセージを送る。 学生による授業評価	事前学習	弾き歌い発表課題曲の練習。
		事後学習	発表を振り返り、今後の練習について、授業がなくなっても現場で対応できるよう今後の学習計画を立てる。